



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. Dynamis: ことばと文化 1998, 2

ISSUE DATE:

1998-03-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87642>

RIGHT:

DYNAMIS Vol.2

ことばと文化

山口 巖 教授退官記念号

巻頭の辞

論 文

- 山口 巖 時制とアスペクトをめぐって
—特に過去時称を中心に—1
- ホアン・レオン
Language, Cultural Analysis and the History
of Human Evolutionary Self-Determination.....29
- 李 長波 皆川淇園の言語研究
—その意味論と構文論的な試みを中心に—55
- 越智 誠一 名詞類別組織をもつ諸言語の構造によせて
—内容類型学的観点から—80
- 檜和 千春 方向認識の非対称性とことばの意味の拡張
—「まえ」を中心に—94
- 信田 千佳 身体部位に関する慣用表現について
—メタファーとメトニミーの関係をを中心に—117
- チャンティマー・チャンタラー
広告のことばにおける比喩的表現
—タイ語と日本語の考察—134

資 料

- 山口巖著書論文目録（研究室編）.....153
- 泉井久之助著書論文目録補遺（研究室編）.....157
- あとがき.....162

1998

京都大学大学院人間・環境学研究科
文化環境言語基礎論講座

巻頭の辞

Nihil est in intellectu,
quod non prius fuerit in sensu.

— J. Locke

Nihil est in rebus,
quod ante non fuerit in verbis.

— A. M. Peshkovsky

DYNAMIS も第2号を刊行する運びになった。またこの講座から2名が無事博士課程に進学することになった。共に慶賀すべきことである。山口は本年を以てこの大学を去るが、この紀要の周りにあった諸君が、やがてこの講座の趣旨を周縁領域に止めることなく、中心領域として独自の学問体系を構築し得る日の、一日も早く来たらんことを願っている。今後の健闘を祈る次第である。

山口 巖

1998年3月

洛東研究室にて

あ と が き

まず、DYNAMIS, Vol.2 の編集が予定通り終了したことの喜びを関係者一同と分かちあいたいと思います。そして、このDYNAMIS, Vol.2 を山口巖先生の退官記念号として刊行させていただきたいという申し出をご快諾いただいた山口先生に感謝を申し上げたいと思います。

山口先生のことはわざわざご紹介するまでもないと思いますが、山口先生に親しく接したことのある人は誰も、私たちにとっての山口先生は、学問の精神を重んじ、常に独創的な研究を発表しておられる国際的な学者としてだけではなく、温厚な人柄と思いやりのある行動と人間的な魅力の持ち主でもあることを否定する人はいないでしょう。

言語学者としての山口先生は、ロシア語学や一般言語学についての数々のご著作によって知られています。なかんずく、十九世紀ドイツの哲学者フンボルトの言語哲学に心酔し、自らもネオフンボルティアンと自任しておられます。先生の学問的な守備範囲の幅は広く、ロシア語学やドイツの言語学的な伝統はいうに及ばず、ソシュールやプラーク学派の言語学にも精通しておられます。そして、ギリシア語、ラテン語などの古典語のご造詣も深く、日本では比較言語学に精通している数少ない学者の一人と伺っております。そして、先生の業績は、ロシア年代記の翻訳から、一般言語学的な射程を持つ動詞意味論の研究まで、歴史、文化、言語、文学の全領域に及び、最近では内容類型学の研究によって日本の言語学界に新風を巻き起こしたことは、学界の等しく認めるところであると、見聞の狭い私の耳にも入ったくらいであります。私は言語学の専門家ではありませんが、この一年間山口先生のご聲咳に親しく接して得た印象は、山口先生は、単なる個別言語の言語学者ではなく、言語の持つ構造と論理を究明することをこよなく愛する、言語の哲学者 (a philosopher of language) というのに相応しい先生だと思います。これは先生の講義に出席したり、先生の論文や著書を読んだりしたことのある人なら、きっと同感でしょう。いや、例え先生の学問に親しく触れることの少ない人でも、山口先生はどんな先生でしかと聞くと、山口先生はどんなことでも誠心誠意力を尽くし、教官だけでなく、

事務官やパートの人にも配慮を忘れず、ほんとうに学生が大好きで、よく気配りをする先生だという答えが返ってきます。そして、先生の研究室はいつも開放的で自由な雰囲気に入れ、たとえまったく知らない人でも、気軽に先生に話し掛けたり、そこを出入りしたりすることができます。

1993年教養部から人間・環境学研究科に配置換えになられる前から、先生は新しい研究科の設置準備に関わり、本研究科の設立に大きく貢献されました。そして、研究科ができてからも、研究科の組織運営に携わり、本研究科のよき伝統を創り上げただけでなく、最も優秀な人材を擁し、自由で活発な研究が展開されている本講座の基礎を作られました。そして、私自身着任してからの一年間は、毎日のように、山口先生のご指導と貴重な助言をいただけてまいりました。もし先生のご指導がなかったら、私は本当に何もできなかったでしょう。これから、講座運営という、私には荷が勝ちすぎるほどの大役を、先生から仰せつかりましたが、私にできることは、ただただ講座全員と一致団結して、山口先生の創られた素晴らしい学問的な伝統と、善意と友情に満ちたこの共同体を守っていくこと以外にはありません。

最後になりましたが、DYNAMIS, Vol.2のために原稿を寄せてくださった、山口先生を始め、執筆者全員に感謝を申し上げます。そして、献身的な努力で編集の重責を全うした越智君には感謝の言葉ありません。一言だけ「ご苦労様でした」と言わせていただくばかりです。

ホアン レオン

1998年3月

DYNAMIS (デュナミス) Vol. 2

1998年3月 1日 印刷

1998年3月10日 発行

発 行 京都大学大学院人間・環境学研究科
文化環境言語基礎論講座

山 口 巖 研 究 室

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

電話 (075)753-6726

編 集 越 智 誠 一

印 刷 所 (株) 田中プリント

〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入

電話 (075)343-0006

(非 売 品)

ΔΥΝΑΜΙΣ Vol.2

Language and Culture

Memorial Volume in Honor of Professor Iwao Yamaguchi
on the Occasion of his Retirement

PREFACE

ARTICLES

Iwao YAMAGUCHI	Aspects and Tenses: — Especially in Praeterital Forms —.....1
Joan LEÓN	Language, Cultural Analysis and the History of Human Evolutionary Self-Determination.....29
Changbo LI	On the Linguistic Studies of Kien Minagawa55
Seiichi OCHI	On the Structure of Language with Noun Class Systems: — From the Viewpoint of Content-oriented Typology —80
Chiharu NARAWA	Asymmetry in Recognizing Direction and Multiplying Word Meaning.....94
Chika NOBUTA	On Idioms and Body Parts: — From the Viewpoint of Metaphor and Metonymy —117
Jantima JANTRA	Figuration Used in Advertising Language.....134

MATERIAL

A List of Prof. Iwao YAMAGUCHI's Works.....	153
A List of Prof. Hisanosuke IZUI's Works, Supplement.....	157
AFTERWORD	162

1998

Department of Language Activities in Cultural Environments
Graduate School of Human and Environmental Studies
Kyoto University